

課題 12 新聞の内容分析

私たちの情報収集はネットが中心になりましたが、自分が関心を持った情報しか接触しないという偏狭も生んでおり、自分の周囲の情報が世界のすべてのように錯覚してしまう危険性を持っています。

この課題を通じて、社会には多様な意見や視点があること、客観的に理解することの重要性を学びます。同時に、メディア研究の中の「送り手研究」という手法も体験します。

(1) 図書館や、駅・コンビニなどで、同じ日の複数の会社の新聞を入手してください。

- 朝日新聞・毎日新聞・読売新聞が三大紙、ここへ日本経済新聞と産経新聞を加えて五大紙といえます。まずは、三大紙から始めてみましょう。
- 余力があれば、五大紙へ広げたり、あるいは地方紙を加えたりしてください。地方紙とは、都道府県レベルで発行されているもので、「京都新聞」「琉球新報」などがあります。

(2) 内容を比較する

- 一面は各社のトップニュースが掲載されています。一面を比較してみて、共通点と相違点を分析してください。
 - ・どの新聞でも取り上げられているニュースと、特定の新聞だけが取り上げているニュースは何か
 - ・同じニュースが掲載されている場合は、見出し、論調、使われている写真などにどんな違いがあるか
- 二面以降は、「国際」「経済」「運動」「教育」などの専門的な紙面に分かれています。会社によって違いがあるか、比較してみましょう。
- 社説は、社を代表した意見ですので、会社の方針や主義がもっとも明確に表れています。